

Joto

ユニークな建材で
長持ち住まいをささえます。

床下浸水時の 「Joto キソパッキング工法」 復旧の手引き



Jotoしろあり保証制度を活用されているお客様へ

「Jotoしろあり保証制度」は水害被害にあった住戸でも、適切な復旧作業が取られていれば引き続き保証の対象となります。下記項目をご確認いただき、対処いただきますようお願いいたします。

- ①基礎外周に土砂堆積物が発生した場合、堆積物を除去し、基礎打継部が建物の地盤面（GL）より高い状態に戻してください。
- ②床下浸水が発生した場合、内部の水や泥を排出し、乾燥させてください。なお、高湿度状態である事が想定されるため、一定期間、ダクトファンによる乾燥処置を行ってください。
- ③床下浸水が発生した場合、防鼠付水切りの通気穴、キソパッキン（キソパッキンロング）の換気スリットにゴミや泥の付着がないかを確認し、もしも付着物がある場合は清掃により元の状態に戻してください。

 **城東テクノ株式会社**
ユニークな建材で長持ち住まいをささえます。

本製品に関するお問い合わせは

 **ダイヤル【J】0120-106011**
受付時間（土・日・祝を除く） 9:00～12:00 / 13:00～16:00

城東テクノホームページ

Joto 
<https://www.joto.com>

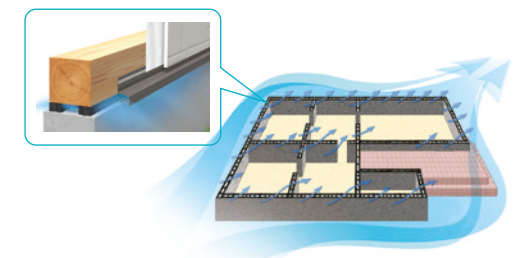


Information

※掲載の正価には、消費税は含まれておりません。※仕様・価格が予告なく変更する場合がございますので、予めご了承ください。
※写真は印刷のため、実際の色と異なる場合がございます。現物またはサンプルなどにてご確認ください。

Joto キソパッキング工法とは

基礎と土台の間にキソパッキンを敷き込み、自然の気流を利用した床下全周換気で床下全体を乾燥させるJoto独自の工法です。基礎と土台を絶縁することでコンクリートの湿気が土台にあがることを防ぎ、腐朽菌やシロアリ被害から住まいを守ります。



近年、日本各地で集中豪雨や台風による河川の氾濫、都市部での内水氾濫など、水害が頻発しています。

それに伴い、床下・床上浸水といった住宅被害に関するニュースを目にすることも多く、その対応を常日頃から意識しておく必要が出てきています。「Jotoキソパッキング工法」は2023年6月に累計施工実績600万棟を突破し、現在では日本の木造住宅の半数以上*にJotoのキソパッキングが採用されています。

木造住宅においてキソパッキングを使用した床下換気工法が一般的な工法として認知、確立されつつあるなかで、キソパッキング工法のパイオニアであるJotoは「長持ち住まいをささえる」企業として、近年増加している浸水被害時の復旧手順を広めることで安心して暮らせるまちづくりを次世代へとつないでいきます。

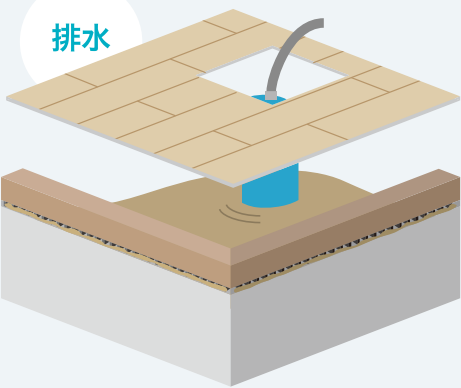
※2024年度新築木造住宅着工数に対するキソパッキングシリーズの出荷量から算出

床下浸水後の「Joto キソパッキング工法」復旧方法

step
01

床下に溜まった水の排水を行う

まずは床下に溜まっている水を、泥水両用の水中ポンプを使い屋外に排出します。床を解体してしまうと、自宅にとどまって生活を続ける「在宅避難」が困難になるため、なるべく床を解体せずに行うことをおすすめします。



ポンプに繋いだホースを床下点検口から屋外まで伸ばして排水を行います。

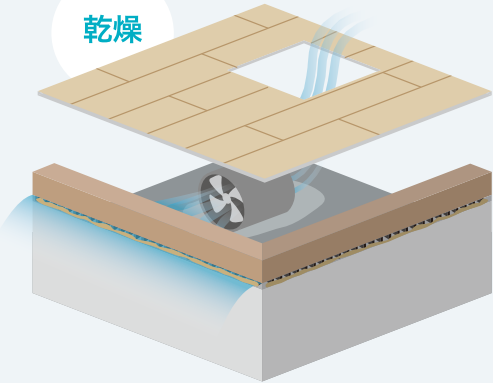
【必要なもの】 泥水両用の水中ポンプ・10m程度のホース

すべての水が排出できず、基礎に1〜2cmほど水が残ってしまっても問題ありません。一般的な大きさの家であれば、ホースは10mほどあれば対応できます。

step
02

床下を乾燥させる

浸水被害を受けた際の対応として一番大切なのが、構造躯体の乾燥です。特に床下空間は土台、構造用合板、柱、アンカーボルト、ホールダウン金物など構造上重要な部材が多いため、速やかに乾燥させることが住宅の長寿命化に繋がります。



床下に溜まった水を排出したあと、床下点検口の直下の床下空間にダクトファンを設置し、乾燥を促進させます。

【必要なもの】 ダクトファン

サーキュレーターや扇風機は一定範囲の空間において空気の循環を促すためのものですので、床下の乾燥にはあまり適していません。特定の場所に強力な空気を送り出すダクトファンの使用をおすすめします。床下点検口などの大きな開口部が2か所以上あると、それらの間で空気が循環してしまい、床下空間全体の換気が十分に行えなくなります。そのため、開口部は1か所に限定し、そこにダクトファンを設置して送風を行ってください。

ダクトファンは床下を確認したうえで、人通口に向けて風を送るように設置します。送風状態が適切かどうかを確認するために、次の2点をチェックしてください。①室内から床下に向かって空気が流れている(吸い込まれている) ②キソパッキング部分から屋外に空気が排出されている これらは、濡らした手をかざして空気の流れを感じ取るなどの方法で確認できます。この状態で2週間〜2ヵ月ほどかけて床下空間を乾燥させます。

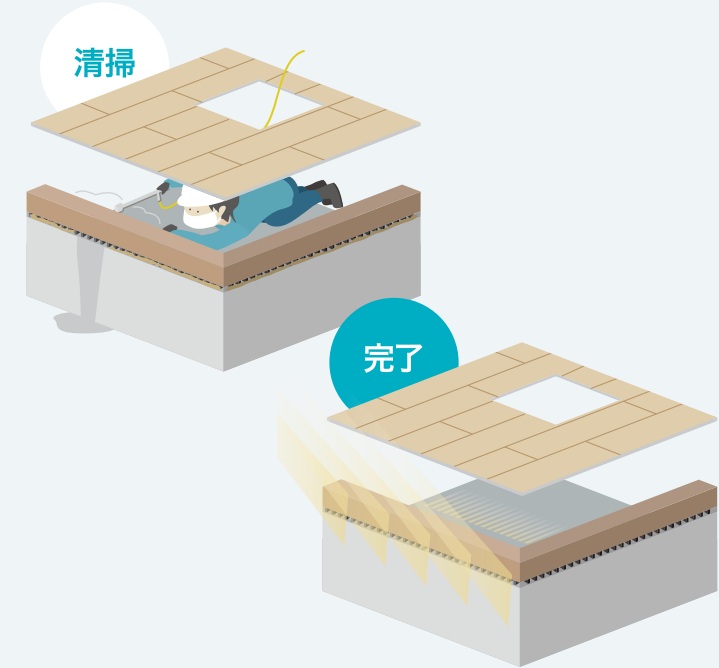
step
03

キソパッキング・土台水切りの清掃

床下空間が乾燥し作業がしやすくなった状態で、キソパッキング工法の換気スリット部分の清掃を実施し、自然換気がしっかり行われる環境を取り戻します。



清掃方法としては、農業用噴霧器や水道ホースで床下空間の内側から換気スリット部分に水を噴霧し、泥を排出します。水圧の強い高圧洗浄機は、狭い床下空間での取り扱いが難しく危険を伴うためおすすめしません。床下空間からキソパッキングの換気スリットを見て、屋外の明るさが確認できるようになれば、換気スリット内部の泥などが排出されたと判断できます。



キソパッキングロングの内部や防鼠付水切りの内部に泥や付着物が残ることで、換気の妨げとなります。この部分の清掃をしっかりと行います。

【必要なもの】 農業用噴霧器・水道ホース・ブラシ・手鏡

防鼠付水切りをご採用の場合は、目視で確認しづらい下側の位置に通気穴が開いているため、手鏡などを使用して通気穴部分に泥や付着物が残っていないかを確認してください。

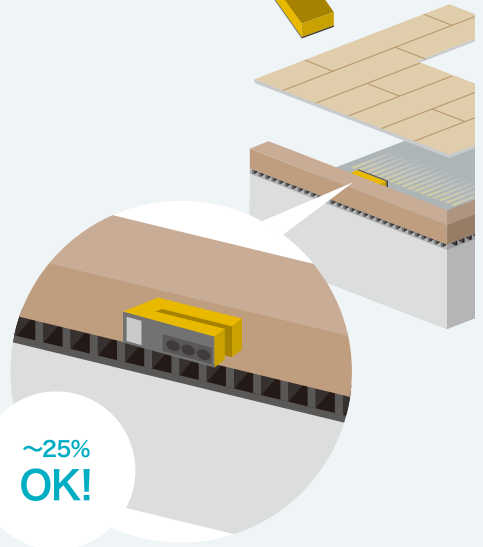


step
04

その後の経過観察

定期的に柱や土台などの木材の含水率の測定を実施してください。ひとつの目安として、半年〜1年後に含水率が25%以下になっていることを目指しましょう。

【必要なもの】 木材含水率計



床下浸水発生後の、「Jotoキソパッキング工法」の工法部分の復旧作業は以上となります。

その他の復旧作業につきましては関係各所と協議しながら進めてください。

【協力】

国立大学法人 信州大学 工学部建築学科
助教 中谷岳史